

## 1 目的

沖縄に、自然科学系の世界最高の研究・教育水準を有する国際的な大学院大学を設置することにより、

- ① 沖縄をアジア・太平洋地域の先端的頭脳集積地域として発展させ、その経済的自立を図る。
- ② 世界の科学技術の発展に寄与する。
- ③ この大学院大学をSuccess Storyとして、日本全体の大学改革にも資する。

## 2 構想の骨子

- ① 世界最高水準(best in the world)を目指す。
- ② 教授陣、学生の半分以上を外国から迎え、英語で講義・会議を行う国際的なものとする。
- ③ 研究教育の分野は、生命システムを中心的な課題とし、生物学、物理、化学、コンピューティング、ナノテクノロジーなどを融合した領域とする。
- ④ 海外の一流大学やアジア太平洋地域の大学との連携を図る。
- ⑤ 内外の一流の研究者や学生に魅力的な大学となるよう最先端の研究施設設備や優れた居住環境の整備を行う。
- ⑥ 大学院大学の周囲に内外の企業の研究所やベンチャー企業を誘致することで、知的・産業クラスターを形成する。
- ⑦ この大学の研究活動と連携して亜熱帯、海洋バイオの研究機能を整備する。

## 3 検討状況

- ① 国内の構想検討会で検討を行うとともに、海外の高名な研究者からなる国際顧問会議を3回開催した。

- ② 第3回国際顧問会議は、本年1月11～12日にサンフランシスコ近郊で開催され、学長候補者のリストを数人まで絞り込むとともに、構想の具体化（教育研究分野、組織の在り方等）を進めるため、ジェローム・フリードマンMIT教授（1990年ノーベル物理学賞受賞）を議長、シドニー・ブレナー・ソーク研究所教授（2002年ノーベル生理学・医学賞受賞）を副議長とする評議会を早急に組織することで合意した。
- ③ 本年1月から2月にかけて、構想検討会の委員とともに候補地の視察を行った。

#### 4 今後の進め方

##### (1) 設立準備作業

- ① 大学の基本的構想の具体化を進めるため、評議会を設置。
- ② 今年4月までに大学院大学の予定地を選定。
- ③ できるだけ早期に学長を選考。

##### (2) 先行的事業

- ① 大学院大学設立までの間、沖縄の知名度向上と将来のネットワーク形成のため、国際セミナー、ワークショップを来年度沖縄で開催。
- ② 大学院大学の研究のスムーズな立ち上げを図るため、将来ネットワークを組む研究機関において、大学院大学の研究に参画する研究者が行う研究を対象に研究費を助成。

#### 5 平成15年度予算

大学院大学に関する予算として、来年度は総額14.2億円を計上（現在国会において審議中）。

（内訳）

（1）大学院大学等基本設計策定・設計調査費	2.7億円
（2）先行的事業	11.4億円
① 国際セミナー・ワークショップ開催費	1.3億円
② 研究事業費	10.1億円